

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 10 月 7 日 (木) 11:05 ~ 11:20

場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室

出席者 相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、泉統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 次世代プログラムの審査の透明性確保等について

< 竹田参事官説明 >

(特に意見等なし)

議題 2 . 鈴木章博士と根岸英一博士のノーベル化学賞受賞について

< 衆原参事官説明 >

本庶議員 昨日はちょうど私、ドイツ大使館に行っておりましたところで、 J S P S の小野さんが最初にニュースをキャッチして公表していただいて、大変うれしかったのですが。その後いろいろなお話を聞きますと、この分野は日本の非常に得意とする分野で、現在、理研の玉尾先生とかこのパイオニア的な方もたくさんおられて、鈴木先生自身もおっしゃっていたように、日本にはもっともっと匹敵するようなすぐれた方がいらっしゃるというお話を伺いして、大変心強いといいますか、日本のレベルが非常に高いということを改めて認識した次第であります。我々としてもぜひこういう方々が引き続き輩出できるような、何とか仕組みといいますか環境をつくっていくことに努力しなければいけないと改めて感じた次第であります。

中鉢議員 物理学のほうもグラフェンという新しい材料で受賞したり、今回の化学賞も炭素、炭素の結合、触媒で結合させるといった、こういう基礎的なものが医薬品であるとか液晶技術だとかそういう産業に結びついていくという点で、非常に勇気づけられる成果だと思います。多分、いろんなプロセスがあったのだと思いますけれども、今の若い人たちにこういうことが正しく伝えられて、若手研究者が勇気を持てばなと思います。産業界としても大変喜ばしいことだと思います。

奥村議員 中鉢さんがおっしゃったことと近いのですけれども、基礎研究をやっておられる方は、研究の初めでは余り実用化は考えていないのですよね。しかし、鈴木先生の談話にありましたように、化学的にカーボンとカーボンを結合させられないかという、これは明快な科学的課題認識を持っておられたことに私は非常に印象に残っております。やはり基

基礎研究は科学的な課題を見据えて進めていただきたい。基礎研究が大事なのは、何十年もその成果が生き残るといいましょうか、私はよく言うのですけれども、上書きされない結果を出していただくことにあります。違う言葉で言うと、知のストック、フローに対するストックですね。そういうものを創出していただく。その成果を活用していく流れ実用化にこぎつけ金もうけしようとする人は必ずどこかにいますから。ですから、実用化は基礎研究とは別の人人がやればいいということでもあります。

白石議員 1つは、まさに今、奥村議員が言わされたとおり、やはりこういう本当に基礎研究の分野におけるブレイクスルーというのが20年、30年後に非常に大きな産業になっていると。ですから、やはり総合科学技術会議としてはそういうような研究が日本で強くなるような、そういう政策というのを考えなければいけないのかなというのを非常に強く感じたことでございます。それに関連して、ちょうどこれ1970年代の後半、80年代ぐらいになされた仕事なので、恐らくこれから、1980年代から90年代の前半というのは日本の力が非常に強くなった時期ですので、ホープフリー、もっともっとこれから日本の研究者の業績が高く評価されてノーベル受賞者が出てくるのではないかと期待しております。

青木委員 ほかの先生たちがおっしゃったのですけれども、根岸先生だったと思うのですけれども、記者会見で共同研究者にお礼を言って、あと大学院生、学生さんにもお礼を言っていたのが非常に印象的だったというコメントです。

相澤議員 このノーベル賞受賞者のリストでも、日本が科学・技術政策を科学技術基本法のもとで進めてきたというのは、1995年に基本法ですから、96年からずっと来ているのですね。ちょうどその期間にこれで10人目の受賞者が出てきているわけです。ではありますが、その研究内容が既に20年、30年前のところでありますので、こういうようなタイムスパンで見ていかなければいけないわけで、今科学・技術の立国を目指してずっと進めてきていることがこれから先いろんなところに花開いていくように、我々がきちんとやっているだろうかということの反省も含めまして、いつもかかる時間というものをよく見て、打つべき手を十分に早く打っておかなければいけないということではないかなと思うのですね。そういう意味でも、今回のお二人がかなりの年齢になっておられることですね。ですから、それをさかのぼって考えるということだと思います。そういう意味で、まさしく4期の基本計画の中でも基礎研究ということを極めて重要な柱にするという形で進めているわけですが、そういうことが十分に反映できるようにしたいというように私も思います。これは、前回3人のノーベル賞受賞者が同時に出了たときにも、まさしくこれは現在の科学・技術政策の成果というよりは、ずっと前からの積み上げで来ているわけですね。ですから、ますます我々は基礎研究の重要さを認識して、今後の施策に反映していくかなければならないのではないかというように思います。

(以上)